

## 県直営による公の施設の管理運営状況

施設の名称	群馬県立近代美術館
所在地	高崎市綿貫町992-1
所管部局・課	生活文化スポーツ部 文化振興課

### 1 施設の設置根拠(法律、条例等)

社会教育法、博物館法、群馬県立美術館の設置及び管理に関する条例
---------------------------------

### 2 施設の役割

<p>(1) 設置目的 美術に関する県民の知識及び教養の向上を図り、もって県民文化の振興に寄与する。</p> <p>(2) 設置当初の状況 明治100年記念事業の一環として、本県美術の振興を図るため、昭和49年10月に開館した。</p> <p>(3) 施設を取り巻く現状 作品の収集・保存、常設展示・企画展示、解説会をはじめとした教育普及事業など、様々な活動を行ってきたが、施設が老朽化したことから大規模改修を行い、平成20年4月にリニューアルオープンした。 入館者は開館以来平成29年9月に500万人を超え、平均年間入館者は約11万5千人となっている。 厳しい財政状況の中、公共施設のあり方検討委員会の中間報告を踏まえて、民間企業との共催による企画展やメリハリのある企画展の開催、教育普及事業の強化など、県民目線に立ち魅力ある美術館づくりに努めている。</p>
---

### 3 施設の概要

設置年月日	昭和49年7月1日(開館10月17日)
敷地面積(所有者)	9,347.56平方メートル(群馬県)
主な施設(床面積、階数等)	展示室、講堂、アトリエ、レストラン、ハイビジョンシアター他(12,530.94平方メートル、地上2階(一部3階建て))
建設費	4,132,379千円
備考	平成9年度現代美術棟を増築(223,307万円)、平成18～19年度アスベスト除去・耐震補強・空調設備一部更新等の改修(123,651万円)工事を実施

◇入園料・利用料等

(円) ◇利用時間(休館日)

区分	金額	9:30～17:00(入館は16:30まで) 月曜休館(祝日の場合はその翌日) 年末年始
一般	300、団体240	
大学生・高校生	150、団体120	
中学生以下	無料	
障害者・介護者	無料	

#### 4 施設における実施事業

<p>○企画展・コレクション展の開催          本物の体験、本物の感動を伝えるため、様々な領域における美術を紹介する企画展や所蔵・寄託作品から選別したコレクション展示を行う。          ・企画展は年4回実施。コレクション展示は、企画展の会期等を踏まえ、年間数回の作品の入替えを実施。</p> <p>○教育普及事業          美術作品の理解を深め、新たな感動を伝えるための解説会、講演会などを開催するほか、子どもたちの豊かなこころを育むため、学校教育との連携を深めるなど、様々な教育普及事業を実施する。          ・アートイベント(講演会、解説会、美術講座、ワークショップ等)、学校教育・社会教育との連携、ボランティアによる事業、近代美術館友の会との連携</p>
--

#### 5 管理運営コストの状況

(千円)

区 分	30年度(当初予算額)	29年度(決算額)	28年度(決算額)	27年度(決算額)	26年度(決算額)
歳 入 (1)	15,936	11,702	13,095	13,009	15,655
使用料	13,548	10,387	10,254	8,482	12,202
雑入(文化振興課)	2,388	1,315	2,841	4,527	3,453
歳 出 (2)	366,528	351,838	329,011	337,394	326,066
常勤職員	142,615	144,140	136,461	123,514	106,643
非常勤職員	24,886	24,656	19,256	24,607	22,945
管理運営費	149,789	135,770	129,111	144,672	140,049
事業費	49,238	47,272	44,183	44,601	56,429
歳入・歳出の差額(1)-(2)	▲ 350,592	▲ 340,136	▲ 315,916	▲ 324,385	▲ 310,411
歳入・歳出の主な増減理由	(歳入)H26年度 企画展「探幽3兄弟」が好評で、使用料のうち、観覧料収入が増加。 (歳出)H28年度 原油安の影響で、灯油及び電気料の支出が減少。館長不在の期間があり、非常勤職員の人件費が減少。常勤職員1名増のため、常勤職員人件費が増加。 H29年度 常勤職員1名増のため、常勤職員人件費が増加。				

#### 6 職員の状況(各年度4月1日現在)

(人)

	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度
常勤職員	15	17	16	14	13
非常勤職員	11	11	11	11	11
合 計	26	28	27	25	24

#### 7 施設利用の状況

区 分	30年度※	29年度	28年度	27年度	26年度
年間利用者総数(人)	92,934	85,238	92,273	78,519	96,285
有料利用者数(人)	28,131	25,187	25,918	23,130	31,345
無料利用者数(人)	64,803	60,051	66,355	55,389	64,940
目標利用者数(人)	100,000	80,000	80,000	115,000	125,000
施設稼働率(%)	—	—	—	—	—
稼働率対象施設(設備)	—				

利用者の主な増減理由	(H26→H27減少理由)春期企画展の観覧者数が減少したため(H26探幽展14,382人→H27佐々木苑子展6,657人) (H27→H28増加理由)夏期企画展の観覧数が増加したため(H27アートオブライフ展6,530人→H28鴻池朋子展15,533人) (H28→H29減少理由)夏期企画展の観覧数が減少したため(H28鴻池朋子展15,533人→H29日本美術展6,800人) ※30年度については9月末までの実績数に10～3月見込みを加算した。
------------	---

※ 見込数又は途中実績を記入

## 8 必要性及び管理運営方法についての方向性

区分	検討結果・理由等
施設の 必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 県の施設としてこのまま存続 <input type="checkbox"/> 県の施設として事業規模等を縮小して存続 <input type="checkbox"/> 市町村に移管・譲渡 <input type="checkbox"/> 民営化・民間譲渡 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他
	<p>現在、当館は、美術作品に係る年4回の企画展の開催を中心に関係事業を展開。観覧者へのアンケート調査でも企画展が「大変良かった」「良かった」の合計は、概ね8割を超えている。観覧者に係る目標値は、企画展について下回ることが多かったが、本年度の企画展について、大きく上回るものがあった。</p> <p>美術館は、県内においても、市町村立の施設など、各所に立地しているが、当館は、建物自体も芸術作品であり、独自のコレクションと相俟って、当館ならではの展示等の事業を展開している。施設・収蔵庫等の規模も大きく、県内他美術館に比して収蔵品が多く、世界的に著名な画家から郷土の画家まで様々な作品を収蔵し、県民の多様なニーズに応じた展覧会が可能であり、保管・管理、他館からの貸し出し要請対応などの役割を果たしている。</p> <p>なお、その建物・施設も年数が経過し、それなりのコストを必要としているが、単純にコスト計算だけでは計れない県民文化の向上等を目的としており、県内の中核美術館としての当館の果たす役割は失われていないと考える。</p> <p>また、地域を代表する憩いの場「群馬の森」にある、歴史ある美術館として、地域に親しまれ、他の美術館とは、作品の貸し出し要請への対応、その他情報交換等を行うなど、一定の協力関係を有している。今後も、県内を代表する、県民に親しまれる美術館として、企画展等の実施を中心に運営していく意義があるものと考えている。</p>
指定 管理者 制度	<input checked="" type="checkbox"/> 県直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度導入 <input type="checkbox"/> その他
	<p>他団体に管理運営を任せることについて、これまで県として開催したような展覧会を開催できる団体は、企画に携わるスタッフ(学芸員等)や、作品を集めるためのつながり・人脈、ノウハウ等の点から、明確に認めることができる団体は現状見当たらない状況にある。</p> <p>また、県が直接運営する美術館として、企画展示等のために作品を借りる際の信用性は極めて大きい。さらに、他の美術館や、巡回展を主催する団体(新聞社など)とも、これまでのつながりなどを踏まえ連携がとれる状況にあり、外部団体のノウハウを活用する必要性は小さいと考える。</p> <p>以上のとおり、県が直接管理することについては、県内の美術館の中核施設として、県直営のメリットを活かしながら企画展等を開催していくことの意義は小さくないと考える。</p>

見直しの検討が必要なものがある     当面見直しの必要はない

業務等  
の見直し

当館のコストについて、主なものは、展示事業および施設の管理・維持費の固定費的なものであり、現状においてコストを大きく削減をしていくのが厳しい状況にある。また、外部委託についても、警備(24時間の人的警備)、展覧会監視・受付等の人件費の大きくかかる部分をすでに業務委託している。なお、北関東の他県美術館の予算や入館者数を比較しても、コスト高とはいえないと思われる。

観覧者数については、メインの企画展について開催してみないとわからない面があるが、今年度の企画展では目標値を大きく上回ったものもあることから、テーマ選定をはじめ、引き続きより多くの県民によりよい展覧会が提供していけるようにしていきたい。

また、連携等については、周辺美術館とは、作品貸し出し、その他情報交換等を適宜行い、市立美術館等との友の会会員での連携割引を実施し、地域住民ボランティアの皆さんには、年間を通じた館活動に協力いただいている。

PR活動については、ホームページ、新聞ラジオ等によるPRを実施。さらに、日曜美術館等での放映等の個別PR活動も行っている。

これまで培ってきた館運営、他館・団体、地域の方々との連携等を、今後も工夫をこらしながら推進し、日常業務の中では職員が常にコスト意識を持ちながら日々の業務を進めるとともに、より多くの県民の方等によりよい芸術鑑賞の機会が提供できるよう、企画展等の立案や開催準備を地道にしっかりと行っていく必要がある。